



令和2年7月  
【002号】

**DreamGP**  
Dream Growing Platform

株式会社ドリーム・ジーピー  
【大阪本社】  
〒556-0004  
大阪市浪速区日本橋西1丁目3-19 南海日本橋ビル1F  
TEL:06-4708-4877 / FAX:06-4708-4789

「ものづくり補助金」を  
活用して現在の課題を解決し、  
新たな強みを得て  
「骨太の会社」にしませんか？

「ものづくり補助金」をご存知でしょ  
うか？

「ものづくり補助金」とは、中小企業  
等による生産性向上に資する革新的サー  
ビス開発・試作品開発・生産プロセスの  
改善を行うための設備投資を支援する補  
助金です（※正式名称は「ものづくり・  
商業・サービス生産性向上促進補助金」  
とします）。



【図1】  
国の経済活  
性化を目的と  
したもので、  
2020年度  
から3年間で  
3千600億  
円の予算が組  
まれており  
（※「ものづ  
くり補助金」  
および「I  
T導入補助

金」、「持続化補助金」  
3つの合計金額）、令  
和元年度の補正予算と  
して、約3分の1の  
1千200億円が計上  
予定。更に、令和2年  
度の補正予算が前倒し  
で成立し、700億円が計上さ  
れています。

「機械装置費およびシステム  
構築費とそれに付随する費用  
（規定）」として、「通常枠」では、  
中小企業が2分の1の補助率、  
小規模事業者が3分の2の補助率、そし  
て「特別枠」に至っては、なんと4分の  
3の補助率で100万円〜1千万円まで  
が補助されます。

つまり、「特別枠」で申請し採択され  
た場合には、申込み企業側の必要経費は  
4分の1で賄えるということになります  
（※ただし、企業側が一旦全額を納入す  
る必要があります）。

たとえば、【図1】のような「①足底  
板の製作工程のデジタル化、②システム  
化を構築（シューイン計測機、インソール  
設計ソフト、インソール切削機）、③足  
底圧計測システムFOOTSAN（足  
底板設計に圧力データの活用が可能）、  
④3次元足型自動計測機（対面・非対面  
で3次元で足の計測が可能）、⑤（各計  
測者に発行される）足手帳、⑥MYFO  
OTPAGEシステム」まで導入された  
場合には、合計約1千200万円（税抜）

【事業再開枠の対象】  
業種別ガイドライン等に基づく、以下の感染防止対策

- 消毒、マスク、清掃
- 飛沫防止対策（アクリル板・透明ビニールシート等）
- 換気設備
- その他衛生管理（クリーニング、使い捨てアメニティ用品、体温計・サーモカメラ・キースシステム等）
- 掲示・アナウンス（従業員・顧客に感染防止を呼びかけるもの）

（出典：経済産業省ホームページより）

【図2】

た数値化による設計、⑤形状の標準化  
とデータ化による再現性の向上」などに  
より、更なる課題の改善（従来型作業の  
効率化と生産性の向上）が可能となり、  
病院のみならず、広く  
一般の方々  
へ向けての  
新たな事業  
スタートが  
可能になる  
機器やソフ  
トまでもが  
網羅されて  
います。勿  
論、弊社の  
ご提案内容  
から、貴社  
の必要に応  
じてご選択

**2020年実施「ものづくり補助金」のご案内**

「ものづくり補助金」とは、中小企業が経営革新のための設備投資等に使える経費の1/2～3/4を最大1,000万円まで補助する事業です（※3/4の補助率は3次のみとの予測）。3次締切…公募要領が発表

≪ 3次締切の場合のスケジュール ≫

- ① 事前準備・・・「GビジネスID」の取得
- ② 5/22(金)12時から・・・公募開始
- ③ 6/10(水)17時～8/3(月)17時・・・申請受付
- ④ 9月末目途・・・採択結果
- ⑤ ③の後1ヶ月程度・・・交付申請・交付決定
- ⑥ ④の後10ヶ月以内・・・補助事業期間  
・事業実施・中間検査・実績報告
- ⑦ ⑤の後1ヶ月程度・・・確定検査（交付額の確定）
- ⑧ ⑤の後1ヶ月程度・・・補助金の請求
- ⑨ ⑤の後1ヶ月程度・・・補助金の支払い
- ⑩ 毎年4月に依頼・・・知的財産権等報告、事業化状況報告

≪ 締切の年間スケジュール ≫

- ・1次締切 令和2年3月31日（済）
- ・2次締切 令和2年5月20日（済）
- ・3次締切 令和2年8月3日 現在
- ・4次締切 令和2年11月頃
- ・5次締切 令和3年2月頃

◎ものづくり補助事業公式HP = <http://portal.monodukuri-hojo.jp/>

が必要なのですが、「もの  
づくり補助金」の特  
別枠を活用された場合  
には、約300万円（税  
抜）の出資で導入が可  
能となります。

弊社からのご提案内  
容では、従来の足底板  
製作から、「①石膏レ  
スによる時短化、②環  
境整備、③石膏保管ス  
ペースの軽減、④足底  
板のCADを活用し

が可能なため、  
「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイ  
ドライン」に沿った取り組みへの支援を  
業種別に拡充した「事業再開枠」として、  
50万円（10分の10）が設定されており、【図  
2】のものが購入可能となります。

これは現在、一刻も早い課題解決をご  
希望の企業様にとっては、またとない  
ビッグチャンスではないでしょうか。

まずはお気軽に、貴社の課題の明確化  
や「ものづくり補助金」について、左記  
までお問い合わせ下さい。

【お問合せ】●電話：06-4708-  
4877/●メール：info@dre  
amgp.jp  
（株）ドリーム・ジーピー 中村美穂

【紹介】世界に向けた弊社のソリューション  
 シャンボプロジェクト  
**JAMBO Project**  
 Japan-Africa Medical Bridge Organization Project



サハラ以南のアフリカにおける支援技術提供アプローチ

1. 背景  
 アドゥアヨム・アハゴ・アクエテビ（弊社研究員）  
 主な四肢の喪失は、外傷、疾患、または先天性変形によるものです。これは、患者の人生の長さに渡って、可動性の減少と偏見を残します。高品質の福祉用具を利用できない場合、切断者は除外、依存、孤立、そして最終的には貧困のリスクが高く、そのすべてが家族、社会、国にとって多大な社会的および経済的コストを伴います<sup>1)</sup>。切断された患者にとって、社会的な生活への再統合は非常に必要です。障害を持つ人々は義肢装具を必要としていますが、利用可能性は限られています<sup>2)</sup>。ガーナでの以前の研究は、義肢装具事業が直面するいくつかの課題を主に明らかにしました<sup>3)</sup>。国のリハビリサービスの開発を促進するために、支援技術（AT）デバイスを必要としている人々に提供する試みは考慮されなければなりません。この報告書は、低所得資源国で身体障害を持つ人々のために再利用できる支援技術デバイスのリサイクルについて説明します。

2. 方法と展望  
 私たちは、日本の大学や義肢装具業界との連携を通して義肢装具の中古部品を集めています。



写真：神戸医療福祉専門学校  
 “チーム ルワンダフル”のリサイクル活動。

ガーナでは集められた義肢の一部が下腿切断者のリハビリテーションに使用されています<sup>4)</sup>。下肢の切断は、切断者の可動性を低下させます。

したがって、切断者に高品質の義肢装具を提供することは非常に重要です。ガーナで実施された以前の研究では、切断者に適切なリハビリテーションサービスを提供するための材料が不足していることが明らかになりました<sup>3)</sup>。国の義肢装具のリハビリサービスの欠如、施設および専門家の欠如など、多くの要因が確認されています。国内の貧しい人々のために、手頃な価格の製品の中古装具を入手して使用することは、ユーザーの生活の質にとって必要です。

3. まとめ  
 切断は生涯障害のある人を残します。自立した生活を送るためには、患者さんに十分なリハビリを提供することが必要です。リサイクルされたATデバイス部品を使用して、ユーザーの標準的な生活の質に対応するプロテーゼを作成する必要があります。装具部品のリサイクルにより、最先端の設備がまだ実装されていない低所得国でデバイスを手頃な価格で利用できるようになり、サブリージョンでのリハビリサービスの開発に向けた第一歩となっています。最後に、3Dプリンティング装具の研究に携わる義肢装具会社と協力したいと思います。

謝辞：神戸医療福祉専門学校 “チーム ルワンダフル” に感謝の意を表します。  
 （※参考文献については、添付のQRコードから英語原文をご参照下さい）



東江 由起夫 氏  
 役割と学ぶべきこととして、全国

【第2回セミナー報告】  
 コロナ「アップデート」から「ウィズ」へ  
 不可避の変化に私たちが出来ること  
 5月16日（土）、義肢装具士の皆様へ向けての第2回オンラインセミナーを開催致しました。  
 まずは弊社代表荒山による「コロナ「アップデート」から「ウィズ」へ」変化を捉えて改革を恐れず、続いて弊社研究員アハゴによる「3Dプリンター活用によるチャレンジ事例の報告」等の後、客員講師の東江由起夫氏（新潟医療福祉大学講師）による「これ

の義肢装具士養成校の殆どが定員割れという現状の中、3D技術を導入しDX（デジタルトランスフォーメーション）へシフトすることの緊急性や実際の導入例、メリットと課題、安全性試験の重要性などについての貴重な示唆を頂きました。  
 続いて、弊社成毛による弊社開発設計ソフト「インソールG」の実演動画解説、客員講師の岩崎良子氏（みちてらす法務事務所代表）により、経済産業省「ものづくり補助金」と「T導入補助金」の活用について、具体例を交えての解説や予算額、補助金の比較等、第1回セミナー同様、分かり易いご説明を頂きました。  
 ※次回は、客員講師に森下尚紀氏（㈱MPand C代表取締役社長）をお迎えした「第3回義肢装具士向けセミナー」の概要をご報告致します。

## 第4回 Zoom 利用による無料オンラインセミナー

【日時】2020年7月18日（土）  
 14:00～16:00

義肢装具士の皆様へ

### 「義肢装具業界と地域貢献と ～業界が目指すべき方向性とは～」

【演題】

1. 14時～15時20分

パネルディスカッション『義肢装具業界と地域貢献と ～業界が目指すべき方向性とは～』

登壇者：有蘭 泰弘 氏（有蘭義肢㈱ 代表取締役）

楠岡 誠広 氏（楠岡義肢製作所㈱ 代表取締役）

鈴木 和敏 氏（㈱テクテクワークショップ、㈱スポーツフォーラム（ランデザイン）代表取締役）

司会：荒山 元秀（弊社代表）

2. 15時30分～15時50分

『地域における義肢装具士の役割 ～可視化の重要性～』

●実演動画：「足圧測定システム”FOOTSCAN”の操作と測定結果を活かした設計ソフト～MyFoot stationの事例～」

講師：成毛 喜男（弊社執行役員）

3. 15時50分～16時

『「ものづくり補助金」についてのご案内』

講師：中村 美穂（弊社営業）



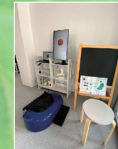
有蘭 泰弘 氏



楠岡 誠広 氏



鈴木 和敏 氏



銀座 MyFoot Station MyFoot Station 泉大津店

宜しければ下記QRコードより、弊社代表共著『中小企業の3D進化論』を一読の上、ご参加下さい。



【お申込み・お問合せ】 ※お申込み期限：7月16日（木）

主催 (株)ドリーム・ジーピー  
 TEL：06-4708-4877 / FAX：06-4708-4879  
 E-mail：info@dreamgp.jp

・「氏名（ふりがな）、貴社名、所属名・役職、電話番号、メールアドレス」をご用意の上、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。セミナー当日、お伺いしたメールアドレスへ専用URLを送信致しますので、そちらをクリックして頂くことでご参加頂けます。

# Assistive technology provision approach in sub Saharan Africa

Akouetevi Aduayom-Ahego, PhD

## 1. Background

Major limb loss is due to trauma, diseases or congenital deformations. This leaves the patients with long life reduced mobility and stigma. Without access to high-quality assistive product, people with amputation are at high risk for exclusion, dependence, isolation and, ultimately, poverty, all of which entail great social and economic costs for families, society and the country<sup>1)</sup>. The reintegration into a sociable life is very necessary for any amputated patient. Although people with disability are in need of prosthetics devices, availability is limited<sup>2)</sup>. Former study in Ghana highlighted some of the challenges the prosthetics service face mainly lacks of sufficient facilities and care providers<sup>3)</sup>. To foster the development of the rehabilitation service in the country, an attempt of providing assistive technology (AT) devices to people in need has to be considered. This report describes a recycling of assistive technology devices that can be reused for people living with physical disabilities in low income resource countries.

## 2. Methods and perspectives

Through collaboration with universities and prosthetic industries in Japan, we have been collecting used parts of prosthesis.



Fig.: Recycling activities of Team Lewonderful, Kobe College of Medical Welfare.

Some of acquired prosthesis part have been used for rehabilitation of a trans tibial amputee in Ghana<sup>4)</sup>. Amputation of the lower limb reduces an amputee's mobility. Providing the amputee with a high-quality prosthesis is therefore highly important. Previous study conducted in Ghana highlighted the lack of material to provide adequate rehabilitative service for amputees<sup>3)</sup>. Many factors have been identified, such as lack of prosthetic and orthotic rehabilitation services, lack of facilities and professionals in the country. Using a mean by acquiring used prosthesis for affordable products for the needy in the country is necessary for quality of life of the user.

### *Future perspectives*

- Establishment of testing tools to check the efficacy and quality of the recycled parts
- Develop a strategic plan to collect in a bigger scale the recycled prosthesis from companies in Japan
- Collaborate with international institutions and non-governmental organization for sponsorship
- Establishment of satellite centers in remote areas in order to serve locally populations living with physical disabilities
- Develop an expert and elite team to foster and boost the technology transfer of the new trends of AT service in sub-Saharan Africa.
- Develop a 3D printing prostheses model for African amputees in which we will recycle the plastic materials locally in Africa to provide affordable prosthesis. By providing several prostheses for many amputees in Africa, they will be socially reintegrated and become independent.

## 3. Summary

Amputations leaves a person with lifelong disability. Providing adequate rehabilitation service to the patient in order to live independent lifestyle is very necessary. Using the recycled AT device parts to make prosthesis that responds to the standard level of quality of life of the user is necessary. Recycled prostheses parts make the device affordable in a low-income resource country where the state of art facilities is not yet implemented is a step toward development of rehabilitation service in the sub region.

Finally, we would like to collaborate with prosthetic companies involved in 3D printing prosthesis research.

## Acknowledgements

The author would like to express their gratitude to Team Lewonderful of Kobe College of Medical Welfare.

## References

- 1)WHO standards for prosthetics and orthotics. Geneva: World Health Organization; 2017. Licence: CC BY-NC-SA 3.0 IGO.p.29
- 2)Hitomi I, Akie K. Diffusion of prosthetic appliances in rural Ghana: Focusing on collaboration between donors and local institution. Proceedings of the 31<sup>st</sup> Japan Association for International Health Congress. 3-4 December 2016, Kurume, Japan.
- 3)Akouetevi AA, Yoshihiro E. Current position and challenges in prosthetics and orthotics education in Ghana. Niigata Journal of Health and Welfare. 2016; 16 (1); 26-34.
- 4) Akouetevi AA, Yoshihiro E. Fabrication of trans tibial prosthesis using recycled prosthesis parts in Ghana. Journal of the Japanese Academy of Prosthetists and Orthotists. 2018; 26 (2); 131-133.